

令和7年度 授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	富津市立天羽中学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 理科の調査結果は、平均正答率では県平均レベルだが、「知識・技能」より「思考・判断・表現」が下回る。また、記述式の問題に対して正答率が低い。
- 生徒質問紙調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」及び「自分の思いや考えをもとに新しいものを創り出す活動を行っている」の回答結果が低い。また、「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する結果が低い。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 生徒が自分の思いや考えを表現できる力を高めるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図る。
- 『『思考し、表現する力』を高めるための実践プログラム』及び理科の学習指導要領を参考に、本校の理科の探究過程を作成・提示し、この流れを意識した授業づくりを行う。
- ICTの活用を含め、学習過程に「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を効果的に位置づけた授業実践及び単元開発をする。

3. 具体的な実践

- 本校の理科の探究過程の作成・提示
 - ・『『思考し、表現する力』を高めるための実践プログラム』及び理科の学習指導要領を参考に、本校の理科の探究過程を作成・提示し、生徒はこの一連の流れを意識して主体的に学習が進められるよう授業実践をした。
 - ・探究過程において、「見通し」と「振り返り」を位置づけ、生徒はどのように捉えて考察すべきかの実践をした。〈R7 全国学力・学習状況調査 理科の問題 1〉(6)を参考)
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的授業実践
 - ・生徒の疑問から個々に仮説を設定し、検証方法を立案するという「個別最適な学び」と、仮説と検証方法の妥当性や結果を共有する「協働的な学び」を一体的に授業に組み込む実践をした。
 - ・粒子概念におけるモデルを使った説明・表現活動について、生徒個々の特性に応じた教材開発を行った。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的授業実践に向けた単元開発
 - ・理科の各領域や単元において、効果的に一体的授業実践できる単元開発をした。

4. 成果

- 5月と10月の生徒意識調査より、次の内容の成果が見られた。
 - ・生徒自ら疑問をもったり、問題を見いだしたり、仮説をもとに実験の計画を立てたりと、主体的に学ぶ意識が高まりつつある。
 - ・班での話し合いや全体の場で、自分の考えを表現（発言）しようとする生徒が増加した。

◆担当指導主事から

- 理科を中心として、全校で授業改善に取り組んでいる。
- 探究過程の意識化を図りながら、疑問から仮説を設定する場面では「個別最適な学び」、共有する場面では「協働的な学び」と位置づけ、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫をしている。探究過程を生徒がより意識できるようになることで、主体性のさらなる向上が期待できる。